



# おおくぼ

学校教育目標 ゆめにむかって かしこく やさしく たくましく  
～ふるさとを愛し、志高く生きる、心優しい大久保の子ども～

令和2年12月1日第8号

さいたま市立大久保小学校

さいたま市桜区五関21

048(854)7636

男子120名女子114名 計234名

## 掃除の基本は「隅」

### 校長 金子 要一

今年最後の月を迎えました。年の瀬の**師走**（しわす）です。そして、この時期になるとどの家でも行われることがあります。それは、**大掃除**です。掃除は毎日やりますが、この時期は特に**念入り**に、そして、**普段はやらないような所**も掃除します。

そもそも、**なぜ年末**に大掃除を行うのでしょうか。

大掃除の始まりは平安時代だといわれています。平安時代の貴族は、年末の12月に、**お正月の神様**である**歳神様**（としがみさま。新年に来てくれる幸せの神様のこと）を**迎える**ために、一年の煤（すす）を払い、失礼がないように**屋敷の中を掃除**して清めたそうです。今でもこの行事は各地の神社などで残っており、これからの時期になるとテレビや新聞でその様子が伝えられる、年末の風物詩です。

でも、現在の家庭における大掃除は、昔のような考えではなく、何よりも**新年という大きな一区切り**を迎えることをきっかけに「**心機一転**」、という理由が大きいのではないのでしょうか。大掃除をして**家がきれい**になることで**気持ちもすっきり**し、前向きに新しい年を迎えられるというものです。そして、もう一つは、「**けじめ**」です。今年一年お世話になった家の中や道具などに**感謝**して汚れを落とし、きれいにしようという気持ちです。

**学校**でも今月の終わりに**大掃除**があります。それを受け、12月の生活目標は「**すみずみまでそうじをしよう**」です。さらに具体的にみると、中学年の目標が「**いつもは気が付かないような場所も掃除しよう**」で、これは高学年もほぼ同じです。そして低学年が「**すみっこまでそうじをしよう**」です。

私が担任をしていた時の話です。私はクラスの生徒たちに常々言っていた言葉がありました。それは、「**掃除の基本は『隅（すみ）』**」です。掲示物にして教室の四隅に貼っていたほどでした。決して冗談で言っていたのではなく、**真剣**に言っていました。

ホウキで掃く時、広い床の中央は必ず掃きますが、狭くホウキの穂先を器用に使わなければならない**隅**はどうしても忘れられ、**ほこりがたまりがち**です。また、拭く時も、真ん中は誰でも拭きますが、隅は拭かれずそのまま、ということがよくあります。**この状態で掃除の終了時間が来たとしても決して掃除が終わったとは言えません。**

「**四角い座敷を丸く掃く**」という言葉があります。四角い座敷を細かい所まで注意しないで、真ん中だけを丸く掃くようなやり方では、四つの隅にほこりを残したままで十分な掃除ができていない、ということから生まれたことわざです。

楽をしようと考え、なまけ心で仕事をして、いい仕事はできません、という意味が含まれているようです。やはり、やるからには**責任をもち、隅々まできれいにしようという気持ち**で取り組んでほしいものです。そう、大掃除だけでなく**日頃からその気持ちが必要**です。



さて、先月21日の**持久走大会**では多くの保護者や地域の方々に**沿道から声援**を送っていただきました。そして、見えない敵はここに来て、また感染者を増やしています。気が抜けない状況です。学校でも対策を講じています。皆様も十分にご注意ください。